



次の(練習1)は、絵にそって学生が文章を書けるように教師がだいたいの流れを考え、学生に一部分だけ書かせる練習です。

(練習1)前のページの絵を見て、_____に適切なことばを書いてください。

リカさんの一日
いちにち

リカさんは、毎朝_____時に_____。それから、まず_____て、_____て、_____で、_____。そのあと、_____て、_____。学校の授業は_____時にはじまります。_____まで_____てから_____。夜は家族と_____。毎日忙しいです。

答えの例:

リカさんは、毎朝7時に起きます。それから、まず顔をあらって、ごはんを食べて、しんぶんを読んで、コーヒを飲みます。

そのあと、バスに乗って、学校へ行きます。学校の授業は10時にはじまります。3時半まで勉強をします。授業が終わってから図書館で宿題をします。

夜は家族とばんごはんを食べます。毎日忙しいです。

友だちに質問して書く内容をはっきりさせる

作文を書く場合、書くための材料を学生が自分でみつける必要があります。そのためにはクラスの友だちに一日の生活について質問して、作文に書くことをはっきりさせるのも効果的でしょう。

(練習2)

質問の例:

- ・何時に起きますか。
- ・起きてから何をしますか。
- ・何時に学校へ行きますか。
- ・何時に昼ごはんを食べますか。
- ・何時まで勉強しますか。
- ・学校が終わってからどこかへ行きますか。
- ・何時に家に帰りますか。
- ・何時にごはんを食べますか。
- ・ばんごはんを食べてから、何をしますか。
- ・何時にねますか。

(質問は皆さんの学生に合わせて変えてください。)

質問の答えをもとにして「~さんの一日」という題名の作文を書きます。このとき(練習1)で見た文章の構成を参考にします。

楽しく作文を書きましょう

学生の創造力を生かすことができるというのも作文の利点です。さらに応用の練習として教師がおもしろい題名を出して、作文を書かせるのもいいでしょう。このような場合、必要なことばや表現を教えてあげましょう。

題名例:「困った1日」「おもしろい1日」「理想の1日」など

作文例

困った1日
こま いち

私は朝8時に起きました。おそく起きたので、朝ごはんを食べないで、出かけました。自転車に乗りませんでした。バスに乗って学校へ行きました。バス代は480円でした。お金が少ししかないので、お昼ごはんも食べませんでした。3時半に授業が終わりました。そのあと、どこへも行かないですぐに家に帰りました。本当にお腹がすいた1日でした。

以上のように、学生に長い作文を書かせるためには、教師が順を追って指導していく必要があります。このように少しずつ練習すれば、学生の「作文嫌い」も少しなくなるかもしれませんが、教師がびっくりするような間違いをおかすことも少なくなるでしょう。

参考文献
さんこうぶんけん

1. コーベニ澤子・高屋敷真人・本間直子(1993)
『モジュールで学ぶ よくわかる日本語1・2』アルク
2. スリーエーネットワーク編(1998)
『みんなの日本語初級I本冊』スリーエーネットワーク
3. 門脇薫・西馬薫著(1999)
『みんなの日本語初級 やさしい作文』スリーエーネットワーク